

【法面踏査結果について(SK13ブロック)】



1 下流側側部の状況

昨年度撮影された以降に若干量ではあるが土砂の流出した形跡が認められる



2 下流側側部の崩壊跡

表面植生を欠くなど、明らかに新しく発生したような崩壊は確認出来ない。



3 下流側側部の崩壊跡地形

表面植生を欠くなど、明らかに新しく発生したような崩壊は確認出来ない。



4 頭部緩斜面の状況

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



5 頭部滑落崖の状況

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



6 頭部直上の堅岩

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



7 頭部滑落崖の状況

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



8 上流側側部の集水地形

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



9 頭部緩斜面内の緩み岩塊

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



10 上流側側部の状況 (凹状地形)

新規の亀裂、段差等の変状は目視で見限り確認出来ない。



11 上流側側部の転石群

転石が多く分布している箇所を確認できる。



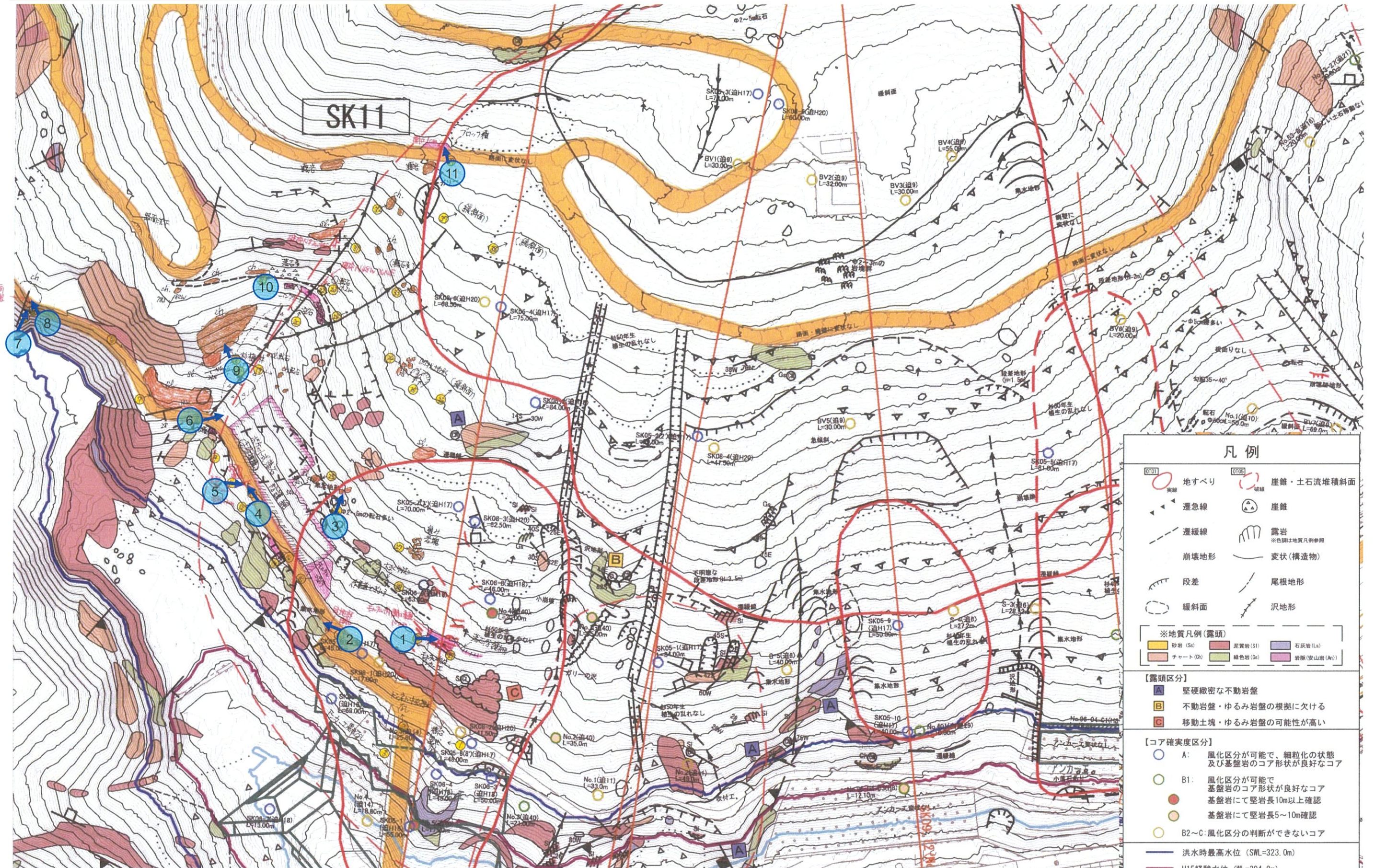
12 上流側側部の旧林道道路路面状況

変化は認められない。

斜面中に新規の崩壊や亀裂の発生等は確認されず、トンネル変状発生の素因や誘因の推定、あるいは今後通行止めの継続・中止等の判断に直接結びつくような知見は得られなかった。

【法面踏査結果について(SK13ブロック周辺)】

平成30年12月13日実施緊急踏査 写真撮影位置図



凡例	
0101	地すべり
0105	崖壁・土石流堆積斜面
▲	遷急線
△	崖壁
---	遷緩線
⌒	崩壊地形
⌒	露岩
⌒	変状(構造物)
⌒	段差
⌒	尾根地形
⌒	緩斜面
⌒	沢地形
※地質凡例(露頭)	
■	砂岩(Sa)
■	泥質岩(Si)
■	石灰岩(Ls)
■	チャート(Q)
■	緑色岩(Ga)
■	岩脈(安山岩) (An)
【露頭区分】	
A	堅硬緻密な不動岩盤
B	不動岩盤・ゆるみ岩盤の根拠に欠ける
C	移動土塊・ゆるみ岩盤の可能性が高い
【コア確実度区分】	
○	A: 風化区分が可能で、細粒化の状態及び基盤岩のコア形状が良好なコア
○	B1: 風化区分が可能で、基盤岩のコア形状が良好なコア
●	基盤岩にて堅岩長10m以上確認
●	基盤岩にて堅岩長5~10m確認
○	B2~C: 風化区分の判断ができないコア
—	洪水時最高水位 (SWL=323.0m)
—	H15経験水位 (WL=304.8m)
—	第2期制限水位 (RWL=290.0m)
—	国道・地方道・管理用道路
○	調査ボーリング
□	地すべり対策工

凡例
1 → 写真撮影位置および方向

(注) 本図は、吉野土木事務所が国土交通省紀の川ダム統合管理事務所より提供を受けた既往資料(「大滝ダム貯水池斜面挙動観測解析業務」報告書、H303)掲載の図面に、写真撮影位置を加筆したものである。

【法面踏査結果について(SK13ブロック周辺)】



1 モルタル吹付工中の亀裂
モルタル吹付工にて、幅約10mmの開口亀裂が確認された。



2 林道張出し部 接合箇所の目地開き
林道張出し部接合目地部での開口が確認された。



3 作業道沿いの緩みのある岩塊
数十cm~1m以上開口している箇所や、積み石状になっている箇所が認められる。



4 林道路面の亀裂
アスファルト路面に若干盛り上がるような圧縮性を示す亀裂が認められた。



5 林道谷側基礎部の亀裂状況
幅約20mm、段差量約25mmの開口亀裂が確認された。



6 地すべりブロック南側の沢地形状況
開口亀裂の拡大写真。



7 地すべりブロック南側の沢地形状況
ポケット式落石防護網が施工済。一部区間では法尻部に土砂が堆積している。



8 林道谷側腰止擁壁
林道の路面亀裂に隣接する谷側の腰止め擁壁目地部が開口している。



9 沢地形の南側
林道アスファルト路面に若干盛り上がるような圧縮性を示す亀裂が認められる。



10 沢部形南側のチャート岩盤露頭
比較的堅固な岩盤が連続性よく分布しており、高さ5mを越える岩壁状の露頭も複数箇所で見られる。



11 沢地形南側 作業道付近の状況
径20cm~30cm程度の落石が多数確認された。



12 林道山側のブロック積み擁壁の開口亀裂
林道山側に設置されたブロック積み擁壁で、ブロックに沿った幅約10mmの開口亀裂が確認された。

新規に発生したような地すべりの滑落崖や段差地形、亀裂地形など、地すべりブロックの範囲を新たに推定することが可能となるような現象は確認出来なかった。